

社会政策学会 *Newsletter*

◇学会本部 大阪市立大学経済学部 玉井 金五気付 URL <http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/sssp/>
 Tel:06-6605-2275 Fax:06-6605-3066 E-mail:tamai@econ.osaka-cu.ac.jp
 ◇事務センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株)ワールドプランニング
 Tel:03-3431-3715 Fax:03-3431-3325 E-mail:world@med.email.ne.jp

<目次>

1. 第109回秋季大会プログラム
2. 学会決算・予算
3. 第110回大会案内
4. 国際交流委員会からのお知らせ
5. 部会報告
6. 第3回幹事会議事録
7. 承認された新入会員

1. 社会政策学会第109回大会プログラム

第1日 2004年10月16日(土)

9:45~11:45 書評分科会、テーマ別分科会(1)、自由論題(1)

<書評分科会・第1 労働経済・労使関係分野>

- 座長 久本憲夫(京都大学) 【10F 会議室】
1. 禹宗杭『「身分の取引」と日本の雇用慣行——国鉄の事例分析』日本経済評論社 井上雅雄(立教大学)
 2. 首藤若菜『統合される男女の職場』勁草書房 中川香代(高知大学)
 3. 中村圭介・岡田真理子『教育行政と労使関係』エイデル研究所 早川征一郎(法政大学)

<書評分科会・第2 社会保障・福祉分野>

- 座長 菅沼 隆(立教大学) 【1F 交流室】
1. 深澤和子『福祉国家とジェンダー・ポリティクス』東信堂 居神 浩(神戸国際大学)
 2. 平岡公一『イギリス社会福祉と政策研究——イギリスモデルの持続と変化』ミネルヴァ書房 高橋万由美(宇都宮大学)
 3. 横山寿一『社会保障の市場化・営利化』新日本出版社 田中きよむ(高知大学)

<テーマ別分科会・第1(産業労働部会)>

- アメリカ雇用社会の実像
 座長 吉村臨兵(奈良産業大学) 【128 教室】
 コーディネーター 白井邦彦(青山学院大学)
1. 「転換期のアメリカ労使関係——自動車産業における作業組織改革」 篠原健一(大阪商業大学)
 2. 「アメリカにおける人的資源管理の変容」 片岡洋子(文京学院大学)

<自由論題・第1 福祉政策・生活>

- 座長 竹田昌次(中京大学) 【127 教室】
1. 「福祉国家の形成と展開における企業の役割」 百瀬 優(早稲田大学大学院生)
 2. 「社会政策の評価研究——韓国の生産的福祉政策を事例に」 朴 光駿(佛教大学)
 3. 「生活の質と『文化政策』——『余暇』問題の《韓国的経

験)をふまえて」 李 百鎬(東京大学大学院生)

<自由論題・第2 ジェンダーと福祉>

- 座長 伊藤淑子(北海学園大学) 【122 教室】
1. 「公的扶助に見る韓国における『福祉』の含意——ジェンダー視点からの再検討」 成 垠樹(東京大学大学院生)
 2. 「次世代育成支援と企業の育児支援」 中村艶子(同志社大学)

<自由論題・第3 労働史・労働運動史>

- 座長 平地一郎(佐賀大学) 【124 教室】
1. 「中国初期社会主義における労働組合論争——ソ連の労働組合論争との比較で」 石井知章(明治大学)
 2. 「1930年代職工層における企業内身分格差の規定要因分析」 菅野滋樹(東京大学大学院生)

11:45~13:00 昼休み
(幹事会、各種委員会、専門部会)

13:00~15:00 テーマ別分科会(2)、自由論題(2)

<テーマ別分科会・第2(労働組合部会)>

- 労働組合運動が直面している現状と課題
 企業別組合の活動の実態を中心として
 座長 高木郁朗(日本女子大学) 【122 教室】
 コーディネーター 鈴木 玲(法政大学)
1. 「自動車産業の労働組合運動が直面している現状と課題」 加藤裕治(自動車総連会長)
 2. コメント(1) 東 正元(トヨタ自動車労働組合執行委員長)
 3. コメント(2) 藤田栄史(名古屋市立大学) 石田光男(同志社大学)

<テーマ別分科会・第3(非定型労働部会)>

- 非定型労働(在宅労働・派遣労働)をめぐる諸問題
 座長 小越洋之助(國學院大学) 【124 教室】
1. 「在宅労働研究の課題と方法——概念整理・類型論・学問的意義」 高野 剛(大阪市立大学大学院生)
 2. 「在宅ワーク立法化への諸試論をめぐって」 神尾京子(家内労働研究会)
 3. 「派遣労働者の現実と組織化・法的保護の課題」 脇田 滋(龍谷大学)

<テーマ別分科会・第4>(13:00~17:15)

- 介護の仕事・能力・経営
 座長 小笠原浩一(埼玉大学)・林 大樹(一橋大学) 【127 教室】
1. 「介護の仕事・能力・経営——総論」 佐藤博樹(東京大学)
 2. 「介護の能力と人材マネジメント——ホームヘルパーを中

- 心に 堀田聡子(東京大学)
3. 「介護労働における暗黙知——施設直接処遇サービスを中心に」 工藤健一(一橋大学大学院生)
4. 「人材育成型介護事業経営」 大木栄一(職業能力開発総合大学校)

< テーマ別分科会・第5 > (13:00~17:15)
生活保護改革を考える 【128 教室】

- 座長 布川日佐史(静岡大学)
1. 「生活保護改革の論点について」 布川日佐史(静岡大学)
2. 「低所得世帯及び生活保護の捕捉率の推計」 駒村康平(東洋大学)
3. 「生活保護による生活再建の現況とまちづくりへの効果」 阪東美智子(国立保健医療科学院)
- 鈴木 亘(大阪大学)

< 自由論題・第4 人事労務管理、非正規従業員の諸問題 > (13:00~17:15)

- 座長 山本興治(下関市立大学) 【10F 会議室】
1. 「入職経路から見た派遣労働者像——『中間労働市場論』に対する批判的検討」 新井美佐子(名古屋大学)
- 水野有香(名古屋大学大学院生)
- 木村大成(名古屋大学大学院生)
2. 「フリーターと産業構造の変化」 飯田祐史(財団法人雇用情報センター)
3. 「企業別組合におけるパート組合員と意思決定過程への関与——正規組合員との比較から」 金井 郁(お茶の水女子大学大学院生)
4. 「トヨタ生産方式と労働時間」 浅野和也(中京大学大学院生)
5. 「アメリカの人事労務管理の現況——賃金制度からのアプローチ」 黒田兼一(明治大学)
6. 「ルース・ミルクマン、『リベット工のロージー』から『工場への訣別』まで」 京谷栄二(長野大学)

< 自由論題・第5 医療保険・介護保険・福祉政策 > (13:00~17:15)

- 座長 阿部 誠(大分大学) 【1F 交流室】
1. 「医療保険における医療内容の決定」 佐々木貴雄(一橋大学大学院生)
2. 「国民健康保険制度形成過程における医療利用組合運動の位置」 高嶋裕子(金沢大学大学院生)
3. 「介護保険と障害者支援費の制度統合議論をめぐって」 武田 宏(大阪府立大学)
4. 「介護保険と自治体福祉政策の課題」 佐藤卓利(立命館大学)
5. 「高齢日雇労働者の就労支援の意義と課題——大阪・釜ヶ崎における『ホームレス自立支援法』の就労支援から」 海老一郎(財団法人西成労働福祉センター)
6. 「中国における社会保障政策の展開——公的老年年金と失業保険制度を中心に」 朱 珉(中央大学大学院生)

15:15~17:15 テーマ別分科会(3) 自由論題(3)

< テーマ別分科会・第4 介護の仕事・能力・経営(続き) > 【127 教室】

< テーマ別分科会・第5 生活保護改革を考える(続き) >

> 【128 教室】

< テーマ別分科会・第6(保健医療福祉部会) >
医療保険制度の再構築 高齢者医療と保険者のあり方をめぐる論議について 【124 教室】

- 座長 土田武史(早稲田大学)
- コーディネーター 矢野 聡(日本大学)
- コメンテーター 権丈善一(慶應義塾大学)
1. 「わが国企業からみた医療保険、社会保障制度の課題」 遠藤寿行(日本経団連)
2. 「社会経済生産性本部からの医療保険制度改革」 山田 武(千葉商科大学)

< テーマ別分科会・第7 >
異常・変化への対応 スウェーデンと比較した日本の製造職場の分業構造 【122 教室】

- 座長 上井喜彦(埼玉大学)
- コーディネーター 猿田正機(中京大学)
1. 「ふだんと異なる作業または変化と異常への対応と職場の分業」 中岡哲郎(大阪市立大学)
2. 「異常への対応——製造技術者と現場作業者の分担」 野原 光(広島大学)
3. 「日本の自動車・電気機器産業における職場の分業——スウェーデンの経験との対比を通じて」 浅生卯一(東邦学園大学)
- 田村 豊(東邦学園大学)
- 藤田栄史(名古屋市立大学)

< 自由論題・第4 人事労務管理、非正規従業員の諸問題(続き) > 【10F 会議室】

< 自由論題・第5 医療保険・介護保険・福祉政策(続き) > 【1F 交流室】

17:45~19:45 懇親会【センター10F 研究者交流室】

- 第2日 2004年10月17日(日)
- 共通論題 「少子化・家族・社会政策」 【10F 会議室】
- 座長 中川 清(同志社大学)
- 室住眞麻子(帝塚山学院大学)

9:45~12:20

- 報告1. 「少子化の人口学的背景と将来展望」 津谷典子(慶應義塾大学)
- 報告2. 「女性の就業と出生率の動向」 川口 章(同志社大学)
- 報告3. 「少子化と家族的責任の現状——家族の子育て負担」 服部良子(大阪市立大学)

12:20~13:30 昼休み
(幹事会、各種委員会、専門部会)

13:30~14:20

- 報告4. 「少子化社会対策と経済的支援——国際比較からみた日本の特徴」 所 道彦(大阪市立大学)

14:40~16:40

総括討論

2. 学会決算・予算

社会政策学会 2003 年度 決算書

自 2003 年 4 月 1 日
至 2004 年 3 月 31 日

【収入の部】

(単位:円)

項目	①'03 年度予算	②'03 年度決算	差額(②-①)	備考
会費収入	8,786,000	10,415,000	1,629,000	会費納入状況 95.7%
大会参加費	1,624,500	1,619,870	4,630	
雑収入	530,000	1,059,040	529,040	学会誌還元金, 広告料, 補助金等
利子収入	1,000	46	954	
当期収入合計	10,941,500	13,093,956	2,152,456	
繰入金	3,515,741	4,211,736	695,995	
収入合計	14,457,241	17,305,692	2,848,451	

【支出の部】

項目	①'03 年度予算	②'03 年度決算	差額(①-②)	備考
大会開催費	1,900,000	1,803,972	96,028	
春季大会	900,000	900,000	0	
秋季大会	900,000	900,000	0	
企画委員会活動費等	100,000	3,972	96,028	
交通費	570,000	131,160	438,840	
部会活動費	200,000	73,062	126,938	
学会誌発行費	4,852,400	5,161,890	309,490	
学会誌代金	4,702,400	5,082,000	379,600	
編集委員会活動費	150,000	79,890	70,110	
選挙関連費	300,000	288,980	11,020	
学会賞関係費	250,000	92,335	157,665	
記念品代等	100,000	17,615	82,385	
審査員交通費等	150,000	74,720	75,280	
業績リスト作成費	200,000	200,000	0	NLに同封
学会ホームページ関連費	150,000	147,600	2,400	
名簿関連費	0	0	0	
内外諸学会分担金	120,000	95,000	25,000	日本学術会議 H14,15; 日本経済学会連合 H15
本部経費	2,261,100	2,307,211	46,111	
幹事会費	30,000	7,065	22,935	
ニュースレター発送費	367,200	445,200	78,000	業績リストアンケート発送費含む
学会事務委託費	963,900	1,046,745	82,845	
その他事務経費	900,000	808,201	91,799	
予備費	300,000	0	300,000	
当期支出合計	11,103,500	10,301,210	802,290	
繰越金	3,353,741	7,004,482	3,650,741	
合計	14,457,241	17,305,692	2,848,451	

注) 2004 年 3 月 31 日現在 会員数 1030 名 (名誉会員 27, 一般会員 853, 院生会員 150)

資産	2004 年 3 月 31 日現在 (円)
銀行口座	7,004,482
郵便振替口座	0
現金	0
合計	7,004,482

上記のとおり相違ありません

2004 年 5 月 17 日 代表幹事 森 建資

会計監査の結果, 上記のとおり相違ありません

2004 年 5 月 17 日 会計監査 伊藤 セツ

社会政策学会 2004 年度予算

2004年5月22日 総会承認
自 2004年4月1日
至 2005年3月31日

【収入の部】

(単位:円)

項 目	2004 年度予算額	参考：前年度予算額	対前年度増減	備 考
会費収入	8,970,000	8,786,000	184,000	会員数 1050 人(見込)
大会参加費	1,624,000	1,624,500	-500	春 ¥1,064,000,秋 ¥560,000(見込)
学会誌刊行助成金	1,700,000	0	1,700,000	新規
学会誌還元金	766,500	390,915	375,585	700 部販売(見込)
雑収入	165,100	140,085	25,015	広告費、利子収入を含む
当期収入合計	13,225,600	10,941,500	2,284,100	
繰入金	7,004,482	3,515,741	3,488,741	
収入合計	20,230,082	14,457,241	5,772,841	

【支出の部】

項 目	2004 年度予算額	参考：前年度予算額	対前年度増減	備 考
大会開催費	2,100,000	1,900,000	200,000	実情に合わせて春秋とも増額
春季大会	1,000,000	900,000	100,000	
秋季大会	1,000,000	900,000	100,000	
大会企画委員会活動費等	100,000	100,000	0	
旅費	600,000	570,000	30,000	旅費規程改正案参照
部会活動費	200,000	200,000	0	
学会誌発行費	4,990,800	4,852,400	138,400	
学会誌代金	4,840,800	4,702,400	138,400	
編集委員会活動費	150,000	150,000	0	
選挙関連費	0	300,000	-300,000	
学会賞関連費	250,000	250,000	0	
記念品代等	100,000	100,000	0	
審査員交通費等	150,000	150,000	0	
業績リスト作成費	200,000	200,000	0	
国際交流関連費	200,000	0	200,000	新規
学会ホームページ関連費	150,000	150,000	0	
名簿関連費	508,000	0	508,000	
名簿作成費	340,000	0	340,000	
名簿発送費	168,000	0	168,000	
内外諸学会分担金	120,000	120,000	0	
本部経費	2,200,250	2,261,100	-60,850	
幹事会費	30,000	30,000	0	
ニュースレター関連費	728,000	717,200	10,800	
ニュースレター制作費	350,000	350,000	0	2004 年度から明示 会員数に連動
ニュースレター発送費	378,000	367,200	10,800	
学会事務委託費	992,250	963,900	28,350	
その他事務経費	450,000	550,000	-100,000	実情に合わせて減額
学会活動推進基金	3,000,000	0	3,000,000	新規
予備費	200,000	300,000	-100,000	実情に合わせて減額
当期支出合計	14,719,050	11,103,500	3,615,550	
繰越金	5,511,032	3,353,741	2,157,291	
合 計	20,230,082	14,457,241	5,772,841	

3. 第110回大会案内

社会政策学会の第110回大会は、2005年5月28日(土)、29日(日)に、専修大学生田キャンパスにおいて開催されます。二日間にわたり、共通論題報告、テーマ別分科会、自由論題報告、各種委員会、総会、懇親会が行われます。

【共通論題】 労働・生活時間の構造変化から見る社会政策
――仕事と生活のバランスをめぐる(仮)――

趣旨 21世紀のあるべき社会政策を、「時間」をキーワードに考えてみたい。

日本人は経済の発展の中で、どれだけの時間を仕事・労働に費やし、どのように他の生活時間――余暇、家族・育児・介護、自己教育、社会的活動等――とのバランスをとってきたのだろうか。その相互関係のあり様は、どのような特徴をもつ社会を生み出してきたと言えるのだろうか。長時間労働で追い込まれ、家庭破壊・過労死・自殺する人々が存在する一方で、フリーターなど非正規雇用で働く人・無業者・引退した高齢者など、時間の使い方が全く異なる人々も同時に増大している。そこにはどのような労働と生活・社会保障の関係が新たに現れてきているのだろうか。大きな歴史的変化のトレンドと国際比較の中で、労働時間と生活時間のあり方をトータルに見直すことを通じて、新しい生き方・働き方とそれを支える社会政策の展望を考えてみたい。

共通論題は、上記テーマに関して、以下4人の報告者を予定しています(以下、仮題)。

1. 長期トレンドからみた日本の労働時間・生活時間
斎藤修(一橋大学)
2. ジェンダー視点からみた労働・生活時間の配分構造
水野谷武志(北海学園大学)
3. ヨーロッパにおけるライフ・アンド・ワーク・バランス論
濱口桂一郎(東京大学)

4. 日本における働き方と生活――現状と提言

久本憲夫(京都大学)

コメンテーター

熊沢誠(甲南大学)

【自由論題・テーマ別分科会の報告募集】

(1) 110回大会の自由論題を募集します。自由論題報告希望者は、所定の応募用紙(11月以降に学会HPからダウンロード可能)に、論題、所属、氏名、連絡先(住所、電話、ファックス、E-mail)、200字程度のアブストラクト、英文タイトル、専門分野別コード番号(1. 労使関係・労働経済、2. 社会保障・社会福祉、3. 労働史・労働運動史、4. ジェンダー・女性、5. 生活・家族、6. その他)等の必要事項を記載の上、お申し込みください。なお、論文あるいは他の学会報告の形で既発表のものは報告を認められませんので、ご注意ください。

(2) テーマ別分科会を希望する専門部会や会員は、所定の応募用紙(11月以降に学会HPからダウンロード可能)に、分科会のタイトル、報告の論題(仮題でも可)、座長・コーディネーター・報告者の名前、所属、連絡先(住所、電話、ファックス、E-mail)、分科会設定の趣旨(200字程度)、各報告のアブストラクト(200字程度)等の必要事項を記載の上、お申し込みください。

(3) 自由論題、テーマ別分科会の申し込みは、原則として、学会HPからダウンロードした応募用紙に必要事項を記載したファイルを、春季大会企画委員長(tanaka@social.tsukuba.ac.jp)宛にE-mailでお送りください。

(4) 申し込みの締め切りは、2005年1月15日(土)です。やむをえず郵送で申し込みの場合は、1月15日の消印有効です。

(5) なお、募集に関する詳細な案内は、11月以降、学会HPに掲載します。

春季大会企画委員長 田中洋子記

4. 国際交流委員会からのお知らせ

去る8月20日付で、韓国社会政策学会から社会政策学会宛に、韓日社会政策学会共同シンポジウムの開催の申し入れ(2004年12月3日、ソウル市で開催)と、これに関連して、玉井代表幹事による基調講演、朴光駿会員によるコーディネート、埋橋孝文会員による介護保険に関する報告、武

川による年金改革に関する報告の招待がありました。国際交流委員会及び幹事会で検討した結果、社会政策学会として上記4人を正式に派遣することに決定しましたので、ご報告申し上げます。
〔文責・武川正吾〕

5. 部会報告

社会保障部会報告

社会保障部会では一橋大学で開かれた春季大会(03年)で『雇用保険制度の行方』をテーマとして掲げ、布川日佐史会員(静岡大学)からドイツの就労扶助制度について、都留民子女会員(広島女子大学)からフランスの失業保障制度について、それぞれ報告頂いた。報告に先立って、座長の大須眞治会員(中央大学)から日本の雇用保険制度の現状に関する簡単な問題提起があり、それを受けてお二人の報告に移った。103名の会員の参加があった。法政大学で開かれた今年の春季

大会では『切り下げられる生活保護』をテーマに分科会を立ち上げる予定であったが、報告者の都合がつかず、次回大会の企画として繰り延べることになった。社会保障部会では、今年の五月以降、部会世話人を浜岡政好会員(佛教大学)に、部会選出の春季大会企画委員を宮本悟会員(静岡県立大学)にお願いすることになった。
(唐鎌直義)

中四国部会からの報告

新担当責任者 浜島清史(山口大学)

秋季企画委員会企画委員 大西秀典(尾道大学)

6. 幹事会議事録

【第3回幹事会議事録】

日時:2004年7月10日(土) 午後2時15分--5時30分

場所:大阪市立大学経済学部会議室

出席:阿部、熊沢、菅沼、竹内、田中、玉井、富田、乗杉、橋元、服部、室住、森

欠席:大沢、木本、伍賀、佐口、猿田、武川、野村、橋本、

兵頭、松丸、宮本、山本、伊藤

議題:

1. 新入会員承認 15名の新入会員を承認した。

2. 108 回大会総括

開催校実行委員会・早川委員長から提出された報告書に基づいて総括がなされた。開催校からの要望に基づき①当日の追加コピー、②大会参加費の前納期限、③分科会と共通論題との日程の問題について議論がなされた。とくに①については報告者が事前に必要部数の用意を徹底すべきことが確認された。この他、託児所の設置の諸課題について話し合われた。

3. 秋季大会企画委員会報告

阿部秋季大会企画委員長より、第 109 回大会の企画案が紹介され承認された。応募状況であるが、自由論題(19 件)、テーマ別分科会 7 件であった。第1日目には書評分科会、自由論題、テーマ別分科会が、また第2日目には共通論題が開催される。なお、7月17日には共通論題の準備会を開くとの報告があった

4. 秋季大会開催校報告

学会本部校で第 109 回大会を開催するので、実務の効率化を図るため、学会代表幹事の玉井が実行委員長を、本部校幹事の服部が事務局担当という体制で臨むこと、幹事会の最終決定を受け部屋の割り振りやプログラム作成に入ること、そしてプログラム発送は 8 月末の予定であるという報告があった。

5. 春季大会企画委員会報告

田中春季大会企画委員長より第 110 回大会企画案が紹介された。共通論題のテーマは「労働時間から見る社会の構造変化(仮)」とし、「日本の労働生活時間の歴史研究」(報告者・斎藤修)をはじめ、「ジェンダーからみた日本の労働生活時間」、「日本の労働時間」、「欧米のライフ&ワークバランス」等のテーマを予定しているとの報告があり、その内容をめぐって議論した。なお、9月に打合せ会が開催される。

6. 第 110 回大会の日程について

第 110 大会は 2005 年 5 月 28, 29 日に、専修大・生田キャンパスで開催予定との報告があった。

7. 編集委員会報告

①橋元編集委員長から提出された報告書に基づいて学会

誌編集作業の進捗状況が報告された。また、委員会として今後取り組んでいく学会誌の改革課題についての提示があり、意見交換した。

②今後目指すべきことのひとつとして、ジャーナル化について議論した。

8. 国際交流委員会報告

国際交流委員会の委員選出報告がなされ、承認された。委員は小川哲生(オックスフォード大学)、河野真(兵庫大学)、鐘家新(明治大学)、関口定一(中央大学)、所道彦(大阪市立大学)、朴光駿(仏教大学)の6名である。併せて、今後全国大会時を中心にできるだけ国際交流の場を設けていきたい旨の報告があった。

9. ホームページ担当報告

学会時に提出されるペーパーのホームページへの掲載の可能性について、話し合いがなされた。

10. 学会賞選考委員

①選出経過の報告書が提出された。

②次期学会賞選考委員案(高木郁朗、埋橋孝文、上井喜彦、木本喜美子、富田義典)が提案され承認された。なお、委員長の選出についての規程が明確でないため、その文言を入れることにした。

③熊沢幹事が提案した「推薦図書」の今後の取り扱いについて富田幹事から原案が出され検討されたが、慎重を要するということになった。

11. 旅費について

新たに出来た旅費規程の取り扱いをめぐって議論した。本部で請求の仕方等の形式を統一し、そのもつとで進めていくことになった。部会へのゲストの交通費支給については、年間の部会活動費の範囲で対処することになった。

12. 学術会議等関係について

日本経済学会連合評議員については、5月に森幹事と木本幹事を選出したが、都合で木本幹事に代わり菅沼幹事が就くことになった。

13. ニュースレターについて

2004 年 7 月 29 日発行を予定しているとの報告があった。

14. その他

次回幹事会は 2004 年 9 月 25 日(土)に開催されることが決定した。

7. 承認された新入会員

氏名	所属	専攻	推薦者
＜9月25日の第4回幹事会での承認(9件)＞			
石飛 猛	賢明女子学院短期大学	社会保障・社会福祉	青木 郁夫 山本 隆
武田 英樹	賢明女子学院短期大学	社会保障・社会福祉	青木 郁夫 山本 隆
水上 祐二	横浜国立大学大学院国際社会科学研究所博士後期課程	労使関係・労働経済	三井 逸友 中川 清
金 智美	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科院生	社会保障・社会福祉	平岡 公一 田宮 遊子
岩下 幹夫	関西学院大学大学院総合政策研究科博士後期課程	その他	玉井 金五 服部 良子
石橋 和彦	同志社大学大学院総合政策科学研究科博士後期課程	労使関係・労働経済	
		社会保障・社会福祉	大塚 忠 石田 光男
植上 一希	東京大学大学院教育学研究科博士後期課程	その他	平沼 高 戸室 健作
岩田 憲治	摂南大学工学部	労使関係・労働経済	
		労働史・労働運動史	玉井 金五 乗杉 澄夫
土場 学	東京工業大学大学院社会理工学研究科	社会保障・社会福祉	
		ジェンダー・女性	
		生活・家族	橋本 健二 橋本 摂子